

経団連・北経連・四経連・道経連・東経連 共催
地域協創ビジネスマッチングワークショップ
(ご案内)

開催日時: 2021年12月3日(金) 14:00~16:30

第一部 プレゼンテーション

第二部 個別懇談会

テーマ: 「一次産業に関連する取り組み・技術」

形 式: オンライン開催
(「EventHub」・「Zoom」)

※本イベント参加にあたっては「EventHub」への事前登録(無料)が必須となります

※共催団体の会員企業・団体のみ参加可能です

地域協創ビジネスマッチングワークショップ（開催概要）

共 催	日本経済団体連合会（経団連）、北陸経済連合会（北経連）、四国経済連合会（四経連）、北海道経済連合会（道経連）、東北経済連合会（東経連）
日 時	2021年12月3日（金）14:00～16:30
参加費	無料 （※EventHub登録も無料）
形 式	オンライン（オンラインマッチングツール「EventHub」および「Zoom」を使用）
申込方法	<u>登録方法をご案内いたしますので、参加をご希望の際はご案内元の事務局までお問い合わせください</u>
テーマ	「一次産業に関連する取り組み・技術」
内 容	《第一部：プレゼンテーション》 → 「EventHub」で視聴 ・各経連推薦企業（2×4団体＝計8社）による協創提案に関するプレゼンテーション（各15分程度） 《第二部：個別懇談会》 → 「Zoom」を使用 ・出展者と来場者間での個別懇談会（各ブレイクアウトルームにて30分程度実施） 《ワークショップ後》 → 「EventHub」での交流 ・出展者と参加者間でのメッセージ交換、Web会議等での個別ミーティング ※「EventHub」での交流機能は2022年1月末までご利用可能です。 ※第一部の模様を後日ご覧になりたい方には、録画を共有（会合後2週間程度）いたします。 ご希望の際は、事務局までお問い合わせください。
案内先	共催団体 会員企業・団体 （原則各会員のみ参加可）
対 象	経営層、経営・事業企画、営業・販売、生産・技術開発など様々な部門の方を対象

当日のプログラム

2021年12月3日(金) 14:00～16:30

《第一部：プレゼンテーション》 EventHub上でご視聴・ご参加

14:00 開会

各出展者プレゼンテーション

(全8社・1社15分程度 ※質疑応答は個別懇談会で実施)

14:00～【北 陸】①福井シード <http://www.fukuiseeds.co.jp/>

②BioSeeds <https://bioseeds.co.jp>

14:30～【四 国】③大倉工業 <https://www.okr-ind.co.jp/>

④PLANT DATA <https://plantdata.net/>

15:00～【北海道】⑤農研機構 <https://www.naro.go.jp/index.html>

⑥北大ロバスト <https://robust.eng.hokudai.ac.jp/>

15:30～【東 北】⑦肉のふがね <https://fugane.jp/>

⑧舞台ファーム <https://butaifarm.com/>

《第二部：個別懇談会》 Zoomに直接ご参加

16:00 開始(予定)

各ブレイクアウトルームにて懇談(30分程度)

① 福井シード 「～日本産の美味しいトマトを世界の消費者に～」

発表者：井村 裕治 代表取締役

連絡担当者：井村 亮介 営業部長

TEL:0776-72-2570 E-mail: r.imura@fukuiseeds.co.jp

社名	福井シード株式会社
設立	1998年12月
業種	農林・水産業
所在地	福井県福井市

事業・研究内容	野菜等の品種開発・種苗の生産・卸、農業用資材・農業用ハウス・園芸用資材の販売、花・野菜等の栽培指導・施設園芸技術指導・造園設計・施工
Webサイト	http://www.fukuiseeds.co.jp/

【事業課題】

日本のトマトは美味しいと言われているものの、これまで輸出に耐え得る品種が出来ていなかった。日本のトマトの本来の美味しさをそのまま広く消費者に味わって頂くべく、今回、輸出が可能な品種を作出した。

【提案・シーズ概要】＜実証段階＞＜実用化・販売段階＞

これからの日本の農業の発展に青果輸出の取り組みは必須。弊社はこれまでの研究開発の経験・知見を活かし、トマトに注目し、**輸出の条件に耐える美味しいトマト品種**の作出に成功した。

10数年前に弊社の品種を含めて日本のトマト青果を欧州に輸出する試みがあったものの、全て裂果してしまい商品にならなかった。その後、数多くの交配を繰り返し完成したのが今回紹介させていただく品種『華力ミカミ』。日本人の味覚を満足させられることは勿論のこと、更には輸出の条件に耐え、流通させやすい品種。美味しさの基準となる糖度は9度～11度内外を常に維持し、食感はシャインマスカットのような、これまでにない食感。流通性は、収穫後の日持ち期間を2週間程度迄可能。

【具体的な協創希望先・内容】＜販路拡大＞

- ・農林・水産業、食料品、卸売・小売業など
- ・**トマトの青果物を海外に輸出**することを検討されている企業
- ・**トマトの自社生産**が可能な企業又は食品流通企業



華力ミカミ(®6139176号)

ミニ バイオ

噛めば噛むほど味があるミニトマト!

- 果肉が厚く、ゼリーが少なく噛めば噛むほどおいしい新食感。
- 糖度は9度前後で、果色は朱色、果重は20g前後のミニ。
- 着果性が高く、果揃いも良い。
- 1果房当たりの花数は15～30花で、シングルとダブル果房が混在。
- 節間が短く、草勢は強い。
- 台木はTm-1型を使用。

- ・平均果重:20g前後
- ・平均糖度:9
- ・TMV抵抗性:Tm-1

128ポット	1トレイ (125本+予備3本)	接木苗
9cmポット	1トレイ(24株)	接木苗

② BioSeeds

「ポータブル肥料分析器『DEPSOR』の活用について」

発表者：マニシュ・ビヤニ
代表取締役社長

連絡担当者：杉山 正樹 マーケティングディレクター
TEL:090 5340 8934 E-mail:sugiyama@bioseeds.co.jp

社名	BioSeeds株式会社 (北陸先端科学技術大学院大学認定ベンチャー企業)
設立	2018年4月
業種	環境モニター装置などの開発
所在地	石川県能美市

事業・研究内容	進化分子工学及びバイオテクノロジーを基礎とした「環境モニター」の技術・装置の開発
Webサイト	https://bioseeds.co.jp/

【事業課題】

ポータブル重金属センサー「DEPSOR」を開発(済)。同機器を使用し肥料の三要素(窒素、リン酸、加里)や微量元素の分析にも使用できる見込みがたちつつある。しかし同機器の農業分野でのニーズの把握ができていない。また人手による土壌分析ではなく、同機器を搭載した自走ロボによる自動肥料分析機の開発するパートナー企業が必要。



【提案・シーズ概要】＜実証段階＞

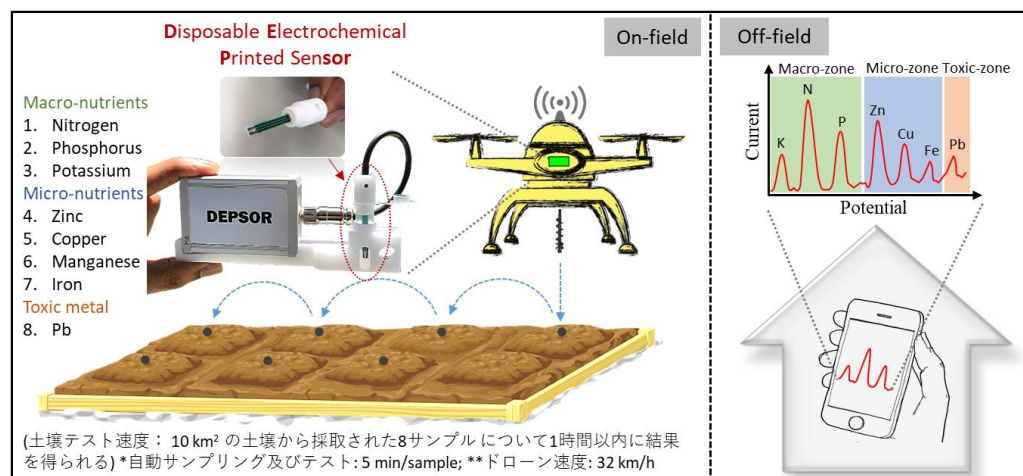
2020年12月に農林水産省が発表した「みどりの食料システム戦略」では、「輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の削減」の記載があり、農地の残留肥料成分を計り不足分のみ施肥することで実現が可能。その為に「DEPSOR」の活用が有効と考えられる。

【応用想定領域】

- ・国内外での脱炭素・持続可能農業のツールとしての活用。
- ・海外大規模農場の施肥前のロボット技術自動分析機は施肥量の大幅削減に繋がる。

【具体的な協創希望先・内容】

- ・農業団体等：農地での実地試験
- ・機械メーカー等：「DEPSOR」搭載自走分析機の開発
- ・大学等：農作物に必要な肥料成分、微量元素の情報収集
- ・農林中金、VC、商社等：本機器・システム開発事業支援



開発する技術や製品「自動サンプリングおよびリアルタイム土壌試験ロボット」のイメージ

③ 大倉工業

「新しい環境配慮型コンクリート型枠パネル『木守』」

発表者：竹下 耕三 建材事業部
住環境グループ グループ長

連絡担当者：立石 昌孝 建材事業部住環境グループ課長代理
TEL:0877-56-1258 FAX:0877-56-1264

社名	大倉工業株式会社
設立	1947年7月
業種	その他製造業
所在地	香川県丸亀市

事業・研究内容	合成樹脂製品の製造販売 光学機能性フィルム等製造販売 建材製品の製造販売
Webサイト	https://www.okr-ind.co.jp/

【事業課題】

「木守」の商品認知の向上・販路の拡大が課題

【提案・シーズ概要】＜実用化・販売段階＞

ラワン合板をベースとした塗装合板が主流のコンクリート型枠パネル（塗装コンパネ）は、南洋材の枯渇や森林保護など、環境保護やSDGsの観点から転換が進むと考えられる。当社では、持続可能な国産針葉樹合板と中質繊維板（MDF）で構成するコンクリート型枠パネル「木守」を開発。**利用を促進する国産材、間伐材の活用など木材の高度利用を実現するMDFで、持続可能な環境に配慮した構成**としている。

デジュールスタンダードである塗装コンパネとほぼ同等の機能と品質を有する木守の認知向上を図り、**建築・土木業に従事する企業等の環境への取り組みやSDGs達成**に貢献したい。

【具体的な協創希望先・内容】＜販路拡大＞

- ・ 土木・建設事業者、ゼネコン、自治体 など
- ・ 塗装コンパネを使用し工事する土地造成や擁壁、水路等の土木工事、住宅基礎や外構、RC造等の建築工事での利用促進
- ・ 土木・建築現場での利用及び公共工事等での設計スペックイン



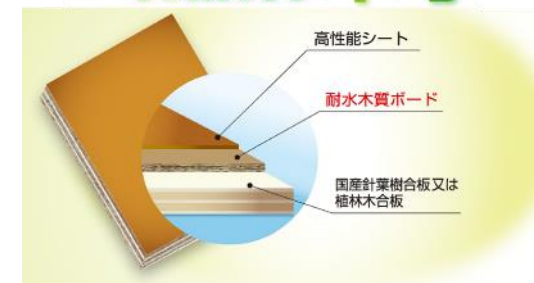
夢がある。技術がある。**未来**ができる。

大倉工業株式会社



竹下耕三 建材事業部住環境グループ長

環境配慮型
コンクリート型枠パネル
comori® 木守®



④ PLANT DATA

「データを軸とした次代の農業生産体系の確立」

発表者: 北川 寛人 代表取締役CEO TEL:090-4367-6218 E-mail: kitagawa@plantdata.net

社名	PLANT DATA株式会社
設立	2014年9月
業種	情報・通信
所在地	愛媛県松山市
Webサイト	https://plantdata.net/

事業・研究内容

農業事業者向けのデータ基盤、クラウド、計測IoTの開発とサービス提供。
『PLANT DATA』は、植物生体情報の計測と解析、そして活用に関するサービスを提供するプラットフォーム。光合成や蒸散のリアルタイム計測やクロロフィル蛍光計測に基づいた植物の環境応答の異常検知など、汎用性の高い植物生体計測のサービスラインを提供する他、要件に応じた植物生体計測手法やアルゴリズム開発やその実装、付帯する研究の受託も可能。

【事業課題・具体的な協創希望先・内容】

<事業・サービス開発><出資>

- ・ ハードウェア(計測IoT)の製造、営業・販売、運用保守の委託先開拓
- ・ AIや統計モデルなど分析ベンダーとの連携
- ・ 灌水装置、細霧発生装置、作業用ロボティクスなど、制御ベンダーとの連携
- ・ ICT教育やSTEM教育のベンダーとの連携
- ・ 機械、電気機器、輸送用機器、精密機器、農林・水産業 など

【提案・シーズ概要】<実用化・販売段階>

- ・ 植物生体計測装置、環境計測装置など、計測IoT。
- ・ データを活用するためのUI/UX(Webアプリケーション)。

【応用想定領域】

- ・ 農業生産現場の遠隔監視や遠隔制御、新品種開発・育種時の表現型計測
- ・ ICT教育やSTEM教育の素材やコンテンツ



北川 寛人 代表取締役CEO



商品イメージ

⑤ 農研機構

「イースト菌コレクションの産業利用」

発表者：高桑 直也 北海道農業研究センター・寒地畑作研究領域・畑作物育種グループ・上級研究員
連絡担当者：宮崎 恒充 本部・事業開発部・ビジネスコーディネーター

TEL:011-857-9444 E-mail: miyazakin509@affrc.go.jp

組織名	農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター
設立	2001年4月
業種	官公庁・団体
所在地	本部：茨城県つくば市

事業・研究 内容	農研機構は、第5期中期目標期間(2021~2025)において、『1.食料の自給力向上と安全保障』、『2.農業・食品産業の競争力強化と輸出の拡大』、『3.生産性の向上と環境保全の両立』の3つを掲げ、農業・食品産業におけるSociety5.0の深化と浸透により、科学技術の面から目指すべき姿の実現を進め、持続的な農業の実現及び地方創生、ひいてはSDGsの達成に貢献していく
Webサイト	https://www.naro.go.jp/index.html

【事業課題】

農産物由来有用微生物の探索



高桑 直也 上級研究員

【提案・シーズ概要】＜研究段階＞＜実証段階＞

とくに北海道由来の花、果実、農畜産物から**イースト菌(酵母)の単離作業を独自に実施**しており、現在2,800株以上保有している。これらは当所規定に基づく手続きを経た上で**貸与や商業利用が可能**である。また、**保有菌株を用いた健康食品や化粧品等の開発の共同研究も可能**である(2021年度現在5社と契約締結中)。

【応用想定領域】

食品、化粧品、医薬品産業

【具体的な協創希望先・内容】＜事業・サービス開発＞＜共同研究＞

- ・ 食料品、医薬品など
- ・ **保有菌株を用いた発酵食品の開発**
- ・ **保有菌株が生産する有用成分を用いた化粧品の開発**



赤い色素をつくるイースト菌

⑥ 北大ロバスト 「共創の場形成拠点への参画企業の募集」

発表者: 藤岡 一博 北海道大学 産学・地域協働推進機構 特任教授

連絡担当者: 畠 隆 北海道大学 ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 コーディネーター

TEL: 011-706-6741 E-mail: hata-t@mcip.hokudai.ac.jp

組織名	北海道大学 ロバスト農林水産工学 国際連携研究教育拠点
設立	2018年4月
業種	その他(教育、研究)
所在地	北海道札幌市(北海道大学工学部)

事業・研究内容	農林水産業現場の問題解決や技術革新につながる研究プロジェクトを企画・策定・実施し、これにより関連産業の学問領域の創生と、技術革新による農林水産業のロバスト化、さらには農林水産業の魅力向上に寄与することを目的とする
Webサイト	https://robust.eng.hokudai.ac.jp/

【事業課題】

「地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成」という拠点のビジョンを共有しながら、各種課題解決に他の参加者と協働して取り組んでいただけの企業を探している

【提案・シーズ概要】＜検討段階＞

人口増や気候変動、コロナによる世界的な社会問題が顕在化するなか、SDGsやパリ協定等の目標達成のため、地域資源をエネルギーとして最大限活用し、環境負荷を軽減した食料生産システムを確立するとともに、ICT等の活用により見える化し、地域の新たな価値創出につなげ、地産地消で自立的な分散型社会の構築が求められている。このため、本共創の場拠点では、「地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成」をビジョンに掲げ、日本の食料供給基地である北海道を主な舞台に、大学や企業、自治体等の技術・人材を結集し課題解決に貢献するとともに、拠点の持続運営のための自立化を目指す。

【応用想定領域】

再生可能エネルギーの利活用、効率的な食料生産、発展途上国への進出

【具体的な協創希望先・内容】＜事業・サービス開発＞＜共同研究＞

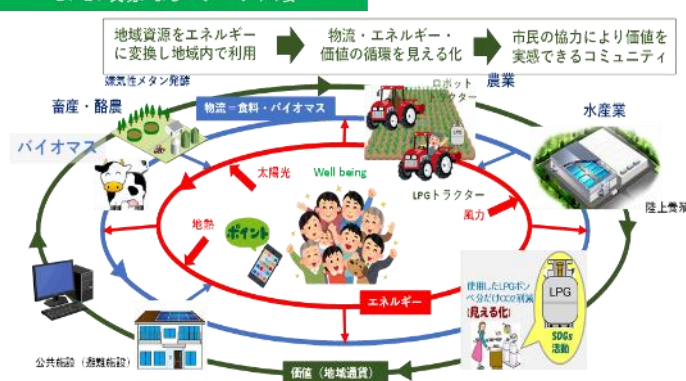
- ・ 農林・水産業、建設業、機械、電気機器、輸送用機器、精密機器、商社など
- ・ 将来ビジョンを共有しながら、産学官の連携により食料生産や再生エネルギー利活用にかかわる各種課題を解決するための共同研究や国内においての社会実装、さらには海外展開も視野に入れた事業展開を目指すことにご賛同頂ける企業の皆様



藤岡 一博 特任教授



ビジョン実現によるコミュニティの姿



⑦ 肉のふがね

「『地域発!山の六次化・畜産チャレンジ』
～岩手グラスフェッド短角和牛ブランド化に向けた取り組み～」

発表者:府金 伸治 代表取締役

TEL:0195-68-7383 携帯:090-8924-9732

E-mail:kanri29@nikunofugane.com

社名	株式会社肉のふがね
設立	2010年4月
業種	食料品

所在地	岩手県岩手郡岩手町
事業・研究内容	食肉加工製造業・食肉小売業・惣菜製造業
Webサイト	https://fugane.jp/

【事業課題】

- ・ 岩手短角和牛生産者の減少
- ・ 岩手短角和牛放牧地閉鎖の影響による中山間地の荒廃
- ・ 牛肉赤身規格規準の確立（現在は歩留・脂肪交雑による評価基準）

【提案・シーズ概要】＜検討段階＞

- ・ 持続可能な畜産である牧草肥育を岩手短角和牛に適用することで、環境負荷の軽減やアニマルウェルフェア思考の導入、そして岩手の食のブランド力向上を目的とする。「岩手グラスフェッド短角和牛（牧草のみで生産される短角和牛）」の飼育と調査研究に関わる資金調達クラウドファンディングを立ち上げる。主な資金の使いみちとして、岩手短角和牛の肥育牛調達費用と生産者の農業環境整備への補助費用である。
- ・ 生涯移動距離（GPS）による行動管理記録による筋肉内アミノ酸含有量の成分調査
- ・ 「Nose To Tail Eating」一頭仕入れ一頭売りをスタンダード化したい

【応用想定領域】

- ・ 中山間地の環境保全・林業労力軽減
- ・ 牛赤身肉評価基準の確立

【具体的な協創希望先・内容】

＜事業・サービス開発＞ ＜共同研究＞ ＜販路拡大＞ ＜出資＞

- ・ 情報・通信、卸売・小売業、銀行・証券・保険業、その他金融業 など
- ・ 生涯移動距離（GPS）による行動管理記録による筋肉中アミノ酸含有量の成分調査研究、土壌改良研究、モニタリング等研究など
- ・ 販売ルートの確立:「岩手グラスフェッド短角和牛」のニーズ調査、ターゲット層の認知・拡大。
- ・ 生産環境の整備:岩手短角和牛の肥育牛調達・岩手短角和牛の肥育牛調達



⑧舞台ファーム 「農業のAI化、DXの推進」

発表者：伊藤 啓一 常務取締役

TEL:022-289-6768 E-mail: ito_k@butaifarm.com

社名	株式会社舞台ファーム
設立	2004年8月
業種	農林・水産業
所在地	宮城県仙台市

事業・研究 内容	米・野菜の生産、食品加工（カット野菜・精米）、植物工場、農業コンサルティングほか
Webサイト	https://butaifarm.com/

【事業課題】

農業のAI化、DXの推進

【提案・シーズ概要】＜検討段階＞

- ・ 日本最大級のレタス生産工場（宮城県美里町）
- ・ 日本最大級のラック式乾燥調整設備（福島県浪江町）
- ・ カット野菜工場（大手コンビニとのベンダー契約）
- ・ 広域型農業連携（米・野菜）
ほか

【応用想定領域】

農業、水産業、中小企業非生産領域等

【具体的な協創希望先・内容】＜事業・サービス開発＞

- ・ 情報・通信など
- ・ 弊社事業（農業・加工業ほか）におけるさらなるDXの推進
- ・ AI化推進による生産性向上の取り組み
- ・ その他生産性の高まる取り組み



伊藤 啓一 常務取締役



お問い合わせ先

- ご参加を希望される場合、ご案内元の事務局担当者へメールにてお問い合わせください。
- ご登録・参加方法の詳細について、担当よりご返信いたしますので、ご参照の上、EventHubへのご登録をお願いいたします。

- ・日本経済団体連合会（経団連）

産業政策本部 高橋 03-6741-0624 doshu@keidanren.or.jp

- ・北陸経済連合会（北経連）

小島・登 076-282-9560 kojima@hokkeiren.gr.jp/nobori@hokkeiren.gr.jp

- ・四国経済連合会（四経連）

産業経済部 逢坂 087-851-6032 osaka@yonkeiren.jp

- ・北海道経済連合会（道経連）

産業振興グループ 西股 011-221-6166 nishimata.tetsuo@dokeiren.gr.jp

- ・東北経済連合会（東経連）

東経連ビジネスセンター 阿部・結城 022-397-9098

y-abe@tokeiren.or.jp / k-yuki@tokeiren.or.jp